

『きばらいや上中山』

「コロナ禍の中でも、寄り添う活動を！」

今年春先からの新型コロナウイルスの感染拡大防止策により、「きばらいや上中山」でも活動の自粛や縮小を余儀なくされています。

現在は役員のみにより、拠点施設「学びの里甲川」周辺の草刈りや、個別のボランティアによる園庭の手入れなど、感染予防に気を付けながら環境整備を行っています。

この様な中、3月17日（火）に大山町役場大山支所で行われた『日本海新聞ふるさと大賞2019』の表彰式において地域貢献賞を受賞いたしました。



▲竹口町長から表彰される渡辺副会長



▲お揃いの法被姿で皆さんと記念撮影

これは、平素からの心がけとして「上中山地区全体の皆さんの和を大切に、他者を思いやる心」や、「お互いを尊重し、支え合う気持ち」など、地域の団結力が評価いただけたものと感じるとともに、今後の活動の励みとなりました。

当日は渡辺博幸副会長と応援に駆けつけたスタッフ有志4名が出席し、同じく同賞を受賞された名和地区の地域自主組織「かくわの郷庄内」の方々とともに、竹口町長から表彰状と記念品を受け取りました。やや

緊張して臨んだ式典ですが、終始和やかな雰囲気の中でとり行われ、竹口町長の祝辞では「きばらいや上中山の活動には、他にない特徴として国際交流イベントが取り入れられています」と、紹介をいただきました。

式典終了後には記念写真撮影があり、応援スタッフは、きばらいや上中山が作製した紙芝居『神話伝説 伯耆の白兔』のうさぎと、大山をモチーフにしたお揃いの法被を着て、他の受賞者や団体とともに満面の笑顔で写真を撮っていただきました。

きばらいや上中山では、世代間交流を意識し、年間を通じて地域の様々な年代の方に参加していただけるように工夫しながら、『甲川まつり』など、様々な地域活性化事業を行っています。

今年度は、夏休み期間中に町内小学生を対象とした『English Day Camp in 学びの里甲川』や秋の大山寺例大祭に合わせて『蟻の大山まいり』などの活性化事業を行う予定とされています。

これまでは、地域を盛り上げていくための仲間づくりを目標とした活動を中心に行ってきましたが、今後は、アンケート等を実施し、地域の皆さんの声を聞き取り、その結果を活用するなど、より一層地域の課題



▲フィジカルディスタンスを保って『一町地蔵』さんの前掛けづくり

解消（地域ニーズ）に根差した活動に発展させていきたいと考えています。

今は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が終息し、夏休みを迎える頃には、学びの里甲川に隣接するプールを利用する子どもたちの元気な声が聞けることを心から願い、活動再開の準備に取り組んでいます。

☎ きばらいや上中山

0858・58・4888

（火・木終日、土の午後）